優秀賞

大雨を経験して

岡崎市立美川中学校　２年　近藤　佐紀

「土砂災害」、私にとってはあまり想像のできないものだった。今までに経験したことがなく、土砂災害の情報を見ても「被害にあった地域は大変だな」と思う程度で、身近に感じたことはなかった。

しかし、そんなイメージをくつがえす出来事があった。６月２日、３日にかけて降った大雨だ。この大雨で土砂災害に対するイメージが変わるとともに、災害に巻きこまれた時、どんなことやものが大切なのかも分かった。

６月２日の給食の時間、雨が強まってきているため給食後すぐに下校するという内容の放送が流れた。この時、学校から見える乙川は茶色ににごった水が大量に流れていて、学区内の一部の地域には避難指示も発令されていた。家族から迎えに行くという連絡があった人や避難指示のでている地域に住んでいる人は学校で待機、それ以外の人は順次下校ということになった。今までに感じたことのない張り詰めた空気にとまどったが、先生の指示に従い、無事に下校することができた。

家に帰ってからは妹と二人で両親を待つことになった。両親も仕事がいそがしかったようで、帰ってきたのは２０時過ぎ。１９時には土砂災害警戒情報も発表されており、子ども二人だけで過ごすのは心細く不安も大きかった。

今までテレビの向こう側のものだった土砂災害や豪雨は、身近でも起こりうるものというイメージに変わった。

実際に、日本では一年間に千件くらいの土砂災害が起きているという。また、気候変動などの影響もあり、土砂災害の発生件数は３０年前の約１．４倍にまで増えているようだ。今でも増加傾向にあり、リスクは大きくなり続けている。土砂災害は決して遠い場所のものなんかではなく、身近にもその危険があると実感させられた出来事だった。

実際に大雨を経験してみると、災害時には正しい情報と事前の備えが大切だということを感じた。

家に帰り、妹と二人だけで過ごす時間は強い不安を感じた。そんな時役立ったのが、テレビやインターネットから発信される情報だった。幸い、私たちが住んでいる家は停電しなかったため、天気予報や避難情報をテレビなどを使って知ることができた。どんな状況なのかをすぐに知ることができたため、安心して両親の帰りを待つことができた。

避難情報や発令されている警報を知ることも身を守るために必要な情報だが、家族の安否というのも大切な情報の一つだと思う。災害時、家族が無事か分からないとなるととても不安で心配になってしまうだろう。安否確認の方法の一つとして、災害用伝言ダイヤルという、電話を使って伝言ができるシステムがあるようだ。こういうものがあると家族で共有し、覚えておくと、いざという時役立つだろうし、落ちついた行動につながると思う。

また、事前の備えもとても心強いものだと思う。私の家は三日分の食べ物や水、着替えなどの非常用持出グッズを用意していて、非常時に持ち出せるようにしている。これを使うことはなかったが、避難することになってもしばらくは大丈夫と不安を軽減させてくれた。食品の消費期限などを定期的に確認し、いつでも持ち出せる状態にしておくと、あるだけで頼もしく、身を助けてくれるものになるだろう。

避難場所やそこまでの経路を家族全員で確認しておくことも備えの一つだと思う。災害が起きた時、親や大人が一緒にいるとは限らない。もし子どもだけで避難することになったとしても安全に避難できるように、避難所や経路を知っておくことも、災害時に役立つ備えだろう。各自治体は避難所や予想浸水区域を示したハザードマップを作ることが義務化されている。家になくてもインターネットを利用すれば手軽に調べられるから、家族で話し合い、確認する時間を作ると、家族全員が災害から命を守ることにつながると思う。

大雨の日の経験を通じ、土砂災害も含む災害の危険は身近にも潜んでいること、その危険を回避するためには正確な情報や事前の備えが大切であることが分かった。

年々リスクが大きくなり続けている土砂災害。自分だけでなく、家族や周りの人の命を守るために、私には何ができるだろうか。経験や学んだことを生かしながら、身近な災害の危険に向きあっていきたい。

優秀賞

土砂災は身近にある

岡崎市立美川中学校　１年　石浦　慶一

僕が、小学２年生の７月西日本豪雨がありました。朝、起きた時、母親がテレビに、「おじいちゃんの家の近くが映ってる」と言っていたのを覚えています。水浸しになっている家が映っていました。祖父の家は、山の斜面に面した場所に建っています。僕たちは、心配だったので電話をかけました。この時、祖父は、大丈夫だと言っていたので、僕は安心しました。

その年の夏休み、祖父の家のある広島県に行きました。行く途中、高速道路の山の斜面が僕の見たことのない姿になっていました。一部分が、緑の木ではなく、土がむき出しになっていました。木も根っこから倒れていました。土砂災害の跡でした。その様な所が、至る所にありました。高速道路から降りた後では、水害の跡も感じることができました。この時僕は、災害というものをテレビの画面からではなく、初めて感じた時だと思います。いつもの広島では無いことがよく分かりました。それは、祖父たちの家の近くの場所に行くと、よく分かりました。小学校の校庭には、集められた土砂が山のようになっていました。山の斜面には、ブルシートがしかれていて、何か所もありました。この豪雨は、普段の生活も変えてしまったんだなあと思いました。僕の祖父とおじさんは、ボランティアで土砂の撤去作業をやっていました。近くの被害の大きかった場所です。祖父は、「暑くて、熱中症になりそうじゃた。それでも、近くのことだから、たすけんと。だから手伝ってるんじゃよ。」と言っていました。土砂災害があると大変なことが祖父の言葉からとても感じられました。

僕は、この西日本豪雨をきっかけに、土砂災害のことについてニュースをよく見るようになりました。土砂災害は、西日本豪雨の時のように大雨が降った時、起きやすいことが分かりました。近年、大雨になることが多いので他にも、たくさん起きているのではと思い調べてみたくなりました。そして、起きやすい条件、対策のことなどを調べてそのことを、自分だけでなく、周りの人にも伝えられたらなと思いました。

まず、土砂災害の種類、特徴から調べました。がけ崩れ、土石流、地すべりの三種類です。この中で、一番多いのは、がけ崩れです。がけ崩れは、雨水が浸透したり、地震のゆれでできた、ゆるみから起きます。それで、突然起きてしまい、避難が遅れて、土砂に飲み込まれるという被害があるようです。前兆があり、崖のひび割れ、小石がパラパラと落ちてくるなどです。次に、土石流です。一番危険だと思いました。原因は、集中豪雨や大雨です。そのたくさんの雨で、土砂や石などが一気に流れて、時速４０から２０キロメートルにもなるものです。それが、家や畑を飲み込んでしまい被害が大きいです。最後に、地すべりです。ゆっくりと斜面が下方に移動するものです。原因は、地質、地下水圧の上昇です。前兆として、地面のひび割れ、陥没などがあると起きやすいです。いろいろな場所で起き、人工的な物と、自然の物があるからです。町で起きたりもするので被害の大きいときもあります。僕の土砂災害が多くなっているのでは。この考えは当たっていました。１０年の平均が前の１０年の平均より１．３倍になっていたからです。

僕は、この土砂災害について調べてみて、知っておくということが大切だと思いました。なぜなら、災害は突然起きるものです。知っていることがあると、災害が起こる前兆がわかります。それが一つだけでもあると避難がしやすいし、自分から注意することもできます。それに、自分から言えるといいと思ったからです。西日本豪雨の時、祖父や祖母たちが土砂

災害に巻き込まれてもおかしくはなかった、そう思いました。自分から避難してと言ったらどんなにいいことか分かりました。必要な時に注意することができる、避難を呼びかけることができます。もし、その様な時が来たら、呼びかけができるようになりたいです。そして、困っている人が近くにいたら、祖父やおじさんのように助けていきたいなと思いました。